



○「今日の最高気温は 40 度」に驚かなくなりました。今年の予想では 10 月に 30 度を超える日もあるらしく、「日本は二季になる」という話も出ています。夏休みが終わっても、暑い“夏”が続いています。私が「熱い夏」で思い起こすのは「高校野球甲子園大会」。昨年、母校が甲子園大会に出場、「自分が生きているうちに母校を甲子園で応援する機会は今もう無い」と青春 18 きっぷを使って甲子園球場を訪問し、本当に暑くて熱い夏を経験しました。さて、今年の甲子園大会、とても考えさせられる出来事がありました。大会が始まってから、X(旧 Twitter)上に、広陵高校のいじめ問題が何度も投稿されていました。それも加害者とされる生徒の実名と写真まで載っていました。広陵高校は 1 回戦に勝利し、負けた旭川志峯高校の選手の一部は試合終了後の選手同士の握手を拒否する、という事件(?)まで起きました。X 上では更に激しい広陵高校に対する批判が続いていました。しかし、新聞、テレビなどはそのことにはまったく触れず、「この先どうなるんだろう?」と思っていた矢先、「広陵高校は出場辞退」の報道が出ました。私にはもうできない、キラキラした高校生の運動競技、その観戦を毎回楽しみにしていたので、一連の問題ではずっとモヤモヤしていました。まずは広陵高校の対応です。これだけ SNS が発達し、誰でもが情報を発信できる時代に、「いじめ」という問題の処理に細心の注意が注がれていたのか。私が那須学園に勤務していた時に一番悩み、気を付けていた問題は「いじめ」でした。寮生活を送っていた彼らにとって、いじめの問題は生死の問題でもあるのです。「喧嘩」は良くないけれど、あっても仕方ないこと、しかし、「いじめ」は完全悪です。脳科学者の中野信子さんは「ヒトは『いじめ』をやめられない」と言っていますが…。広陵高校はいじめの加害者に一定の処分をしましたが、その後は部活動を継続させ甲子園の出場メンバーに、そして被害者は転校して決着となったようなのです。高野連もこの問題は把握していたようですが、広陵高校は甲子園大会に出場することになります。そして前代未聞の大会途中の出場辞退。1 回戦で甲子園を去った旭川志峯高校の生徒や保護者、教員の気持ちを考えると、やりきれません。高野連はこうなることが予想できなかったのでしょうか。そして今、加害者とされる生徒が被害者の親権者を刑事告訴するという事態にまで発展しました。部活動も教育活動の一環だと思います。今年度、我が母校の野球部には多くの新入部員が加入してきたと聞きました。私立高校では、部の全国大会出場、それも国民が毎年注目する高校野球甲子園大会出場は生徒を集める大きな武器なのでしょう。しかし、今回の事件で、広陵高校は存続の危機を迎えるのでは、という話も聞きます。影響が大きくなり過ぎた SNS の存在に大人の感覚が追いついていません。いじめは悪です。しかし、誰でも間違いは犯すし、特に子どもは間違いから学ぶ、大人が学ばせねばならないのです。SNS には、学ばせる、より抹殺する力があるのではないかと危惧します。加害生徒はいけない、けれども顔と名前を晒された彼の将来を全て奪って良いのか。被害者とその関係者の気持ちも分かります。ただ、被害関係者がこんな行動に出る前に、被害者との話し合いが真摯に行われたのか、真相解明、体質改善への努力は十分にできなかったのか、過剰な SNS 攻撃への対策はできていたのか、本当に残念でなりません。

この夏の甲子園大会出場校は私立高校が大勢をしめ、公立高校はわずか 6 校でした。その中でベスト 4 になった岐阜卓商部員のほとんどは岐阜出身者。しかし、出身中学の部活をみると、これもほとんどがボーイズ(中学生硬式野球クラブ)出身で、中学校野球部出身の生徒は一人だけでした。全中アイスホッケー大会で優勝 3 回を誇る日光東中学アイスホッケー部も今年からクラブチームとなり、県内中学のアイスホッケー部はなくなりました。学校の部活はこれからどうなるのでしょうか。話は飛びますが、9 月から私が観戦を楽しみにしているアイスホッケーアジアリーグが開幕。私の熱い季節はこれから 3 月まで続きます。